



高崎経済大学地域科学研究所 第12回公開講演会

なぜ今、行政が終活を 支援しなければならないか

—無縁遺骨が鳴らす現代社会への警鐘—

2000年ごろから、多くの自治体で引き取り手のない遺骨が急増してきた。その多くは、身元も分かり親族もいる、ごく普通の住民のものだ。家族・親族はそれほどまでに冷たくなったのか。

2015年に予防策として始めた、わが国初の行政版：終活支援事業。その事業を通じて見えた、引き取り手のない遺骨が鳴らす警鐘と驚きの事実。

事態回避のために、今、行政が打つべき手は何か。

講師：北見 万幸 氏
(横須賀市福祉部 福祉専門官)

日時：2019年7月5日(金)
16時00分～17時30分

場所：高崎経済大学 図書館ホール
* 入場無料・事前予約不要

《講師プロフィール》 北見 万幸(きたみ かずゆき)
横須賀市福祉部福祉専門官。元・生活福祉課自立支援担当課長。
終活内容を市に登録する「終活情報伝達事業」とその基となった「エンディングプラン・サポート事業」を発案。

《お問合せ先》 高崎経済大学地域科学研究所
(事務局 研究グループ研究支援チーム)
電話：027-344-6267
E-mail：chiikikagaku@tcue.ac.jp